

「対話の広場」紙芝居の魅力

—第5回ワークショップ「紙芝居は楽しいぞ！」を通じて—

松永友和

はじめに

平成20年5月28日（水）、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究所の主催で、第5回ワークショップ「紙芝居は楽しいぞ！」が開催された。現在も街かどで紙芝居を演じている、鈴木常勝氏を講師としてお招きした。第1部では紙芝居の魅力についてご講演いただき、第2部では、キャンパス内で紙芝居の実演を行った。ここでは、ワークショップ当日の様子や、アンケートにみる参加者の「声」について紹介をしたい。

園、平野の全興寺などで紙芝居を演じている。『紙芝居は楽しいぞ!』（岩波ジュニア新書、2007年）や『紙芝居がやってきた!』（河出書房新社、2007年）、『メディアとしての紙芝居』（久山社、2005年）などの著書もある。



大阪府立総合文化センター
ワークショップ「紙芝居は楽しいぞ!」
2008年5月28日(水) 10:40~12:40
なにわ・大阪文化遺産学研究所主催

第5回ワークショップ
紙芝居は楽しいぞ!

平成20年5月28日(水)

【第1部】10:40~12:10
講演：鈴木 常勝氏「紙芝居屋がやってきた!」
会場：関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究所1F 文化遺産実習・展示室

【第2部】12:10~12:40
鈴木常勝氏による紙芝居の口演
会場：関西大学博物館前（雨天の順も開催いたします）

※参加自由です
主催 関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究所



鈴木氏の似顔絵の入ったチラシ

ワークショップ当日の様子

ワークショップ当日の5月28日は、幸い雨天の予報が外れ、5月にしては少し汗ばむ陽気となった。

今回お招きした鈴木常勝氏は、1972年に大阪で紙芝居を始め、現在も住吉公園や長居公



紙芝居について熱く語る鈴木常勝氏



鈴木氏の講演に目を輝かせる学生たち

第1部は、センター1階の文化遺産実習・展示室において、鈴木氏に「紙芝居屋がやってきた!」と題して、ご講演いただいた。紙芝居をはじめのきっかけや実演での苦労話をはじめ、アジア（中国・ネパールなど）の街かどで紙芝居をしたときの体験談などをご披露していただいた。鈴木氏の魅力ある語り口に、文学部の「知へのパスポート」受講生らが熱心に聞き入っていた。鈴木氏は、「これまで紙芝居を続

けられたのは、子どもたちに支えられてきたからだ」という。この言葉は私にとって、今でも印象に残っている。

第2部は、関西大学博物館前の広場に場所を移し、拍子木の音とともに紙芝居を語る鈴木氏の声が響きわたった。紙芝居には付き物の水あめやせんべい、かたぬきが配られ、学生たちは馴染みのないお菓子と格闘しながら、紙芝居に見入っていた。

おそらく、関西大学の敷地内で本格的な紙芝居が行われたのは、今回がはじめてであろう。紙芝居を演じている鈴木氏の周りには半円を描くように何重にも人だかりができた。また、第2部は昼休みの時間帯ということもあり、キャンパスを往き交う多くの人びとも足を止めて、紙芝居に見入っていた。

私が印象に残ったのは、紙芝居を見ている人びとの表情やそのときの雰囲気である。鈴木氏の「語り」に惹きつけられ、ときに真面目に、ときに笑いも交えて、真剣に紙芝居を見ていた。紙芝居を演じる者と受けとめる側、この両



博物館前の広場で行われた紙芝居



水あめを練りながら紙芝居を見る学生たち

者が一体となって調和し、言葉では表現しきれない「紙芝居空間」がうまれたのだと思う。

鈴木氏は、「紙芝居は対話の広場」だと言う（『紙芝居は楽しいぞ!』155頁）。さらに「紙芝居はライブ」であり、「語り手のアレンジが紙芝居の魅力」とも述べている。テレビなどとは異なり、対話によってつくりあげられる紙芝居は、昭和期における日本の庶民文化であり、現在においては貴重な「文化遺産」である。私はそのことを、今回のワークショップを通じて実感することができた。

参加者の「声」

最後に、アンケートをもとに当日参加された方の「声」を紹介したい。

- ・街頭で実際に見たことがないのに懐かしい思いがしました。私が幼い頃には近所の子同士で遊ぶことはめったにありませんでした。紙芝居屋さんが来ればそういうことも増えたのだらうと思います。今でも充分に楽しめたので、当時は夢中になったらうと感じました。（女子・学生）
- ・今回初めて紙芝居を見ましたが、一つ一つの話にストーリー性があり、とてもおもしろかったです。紙芝居というのが子どもに与えるものは大変大きいように感じました。（男子・学生）
- ・とてもよかったです。（ビデオで紹介されていた）紙芝居を見ている子供たちの表情がとてもキラキラしていて楽しそうだったので、私も紙芝居を見て育ちたかったです。テレビよりも紙芝居の方が好きだ、という子供たちの言葉はとても感動的でした！（女子・学生）
- ・紙芝居が、地域にとってとても重要な日本文化だと思いました。（男子・学生）
- ・地域社会の活性化につながるというのが、とても印象的でした。（女子・学生）
- ・今、紙芝居屋さんの人数が少ないことはとても残念です。この良さを他の人にも知ってもらいたいです。（女子・学生）